

## (12) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)

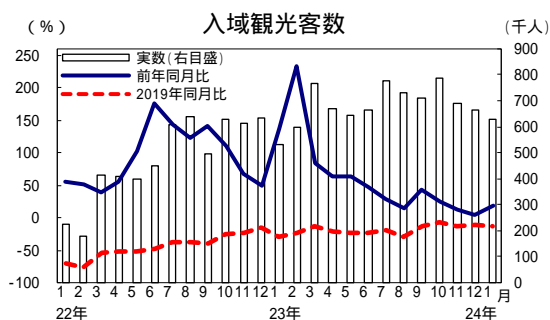
前回からの主要変更点

なし

### 1. 観光の動向

観光は持ち直している。

10 - 12月期の入域観光客数は、前年同期比14.0%増(2019年同期比10.9%減)となった。国内客は同0.5%増(同2.7%増)となり、外国客は302千人(同50.7%減)となった。月別でみると、10月は前年同月比25.0%増(2019年同月比7.4%減)、11月は同11.9%増(同13.9%減)、12月は同5.0%増(同11.7%減)、2024年1月は同18.2%増(同16.5%減)となった。10 - 12月期のホテル稼働率は、前年同期差5.1%pt減となった。



入域観光客数等の動向

	2023年			2024年
	4-6月	7-9月	10-12月	1月
入域観光客数(千人)	1,978	2,218	2,143	629
(前年比、%)	57.7	27.2	14.0	18.2
国内観光客数(千人)	1,764	1,899	1,842	509
(前年比、%)	40.6	9.0	0.5	4.4
国外観光客数(千人)	214	318	302	120
(前年比、%)	皆増	318,100.0	533.6	168.5
ホテル稼働率(%)	62.2	64.8	62.5	
(前年差、%pt)	15.6	5.4	5.1	

(備考) 1. 入域観光客数、国内観光客数、国外観光客数は沖縄県観光政策課調べ。2023年12月、2024年1月は速報値。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

## 2. 個人消費の動向

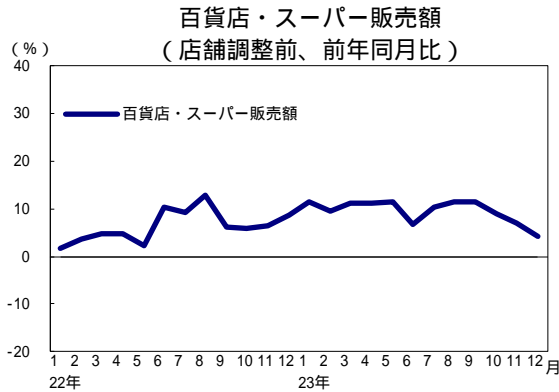
個人消費は持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12 月期は前期比 1.0% 減となった。月別にみると、10 月は前月比 0.1% 増、11 月は同 0.3% 減、12 月は同 0.6% 増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12 月期は前年同期比 6.5% 増となった。月別にみると、10 月は前年同月比 8.9% 増、11 月は同 7.0% 増、12 月は同 4.2% 増となった。



	2023年10-12月	2023年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.0	0.1	0.3	0.6
百貨店・スーパー(*2)	6.5	8.9	7.0	4.2
コンビニ(*2)	7.4	8.5	7.0	6.7
乗用車(*3)	5.8	15.7	11.4	7.7
(季節調整値)(*3)	6.1	5.7	2.6	9.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

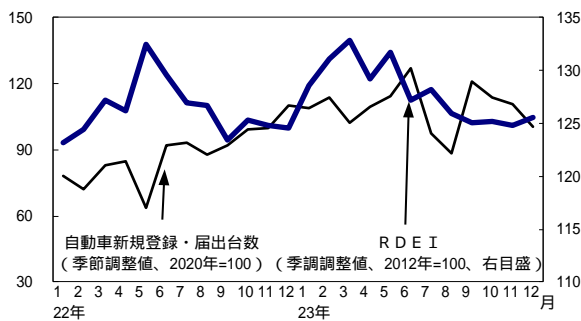
2. 前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)

コンビニは日本銀行那覇支店調べ

3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

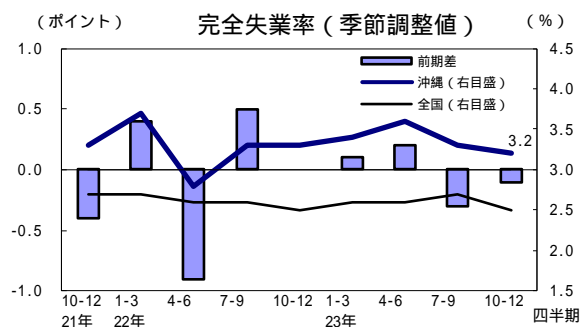
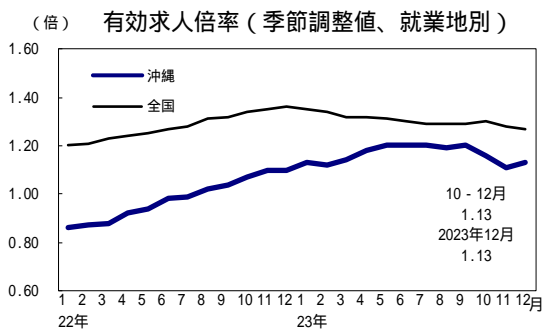
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P9 参照)。一般労働者の定期給与、パート労働者の時給は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 沖縄県「労働力調査」の月次値を、内閣府にて四半期平均化。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和6年1月調査）景気判断理由の概要

12. 沖縄

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人件費や建築資材高騰の影響で建築単価が高止まりしており、客は住宅取得に対して及び腰の印象を受ける（住宅販売会社）。</li> <li>・宿泊部門は低調である。3か月前は修学旅行などの団体もあり良い傾向にあったが、1月は年末年始の宿泊も少なく、それ以降も良くない。2019年比で65%程度の売上である。料飲部門は年明け新年会などに期待したものの、需要も想定より少なく、さらに、人材が整っていないため予約を断ることもある。2019年比で50%の売上である（観光型ホテル）。</li> </ul>	
		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪するクルーズ船寄港数、国際線の利用者数も順調に回復しており、円安の影響でインバウンド利用者が増えることによって単価自体も上昇傾向とみている（コンビニ）。</li> </ul>
		◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震によって、県外からの観光客が減っているようにみえるが、野球、サッカーのキャンプも始まっているため、期待したい（一般小売店〔酒〕）。</li> </ul>
	企業 動向 関連	□	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見積依頼は微増しているが、受注状況に大きな変化はない（窯業土石業）。</li> </ul>	
		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流倉庫の建設予定や県外大手企業の製造工場立地案件、海外向け輸送案件の相談、実施が増加しており、景気が良くなっているとみられる（輸送業）。</li> </ul>	
		—	—	
雇用 関連	□	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人数については、前年同月比では横ばいであり、ここ最近では横ばい傾向が続いている。また、求人票へ記載される賃金は上昇している。物価高の生活への影響を注視している（職業安定所）。</li> </ul>		
	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人数は業種、業界を問わず、全体として前月比で約30%増加している。そのなかでも建設業、飲食業、介護職、保育職が前月より大きく増加している（求人情報誌製作会社）。</li> </ul>		
その他の特徴 コメント			<ul style="list-style-type: none"> <li>□：販売量が安定している（乗用車販売店）。</li> <li>▲：1月は成人式後からの平日の入客が例年の半分ほどに落ちている。週末は例年の90%くらいは保っているが、平日の入客が極端に悪い。地元客の財布のひもが固くなっている（その他飲食〔居酒屋〕）。</li> </ul>	
先行き	家計 動向 関連	□	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行きの受注状況は前年並みで推移しており、国内客は若干入りが良くないが、その分をインバウンド需要で補っている（その他サービス〔レンタカー〕）。</li> <li>・バレンタインやホワイトデー、返礼ギフトの需要などが増加する（百貨店）。</li> </ul>	
		○		
	企業 動向 関連	□	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見込みの高い客の来店が止まったままである（建設業）。</li> </ul>	
		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからプロ野球、サッカーのキャンプインシーズンなどにより更に観光客の増加が見込まれる（食料品製造業）。</li> </ul>	
	雇用 関連	□	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人手不足や物価高などで、なかなか景気は変わらない（人材派遣会社）。</li> </ul>	
	その他の特徴 コメント			<ul style="list-style-type: none"> <li>□：世の中の全体的な価格上昇のなか、単価の高い耐久消費財は、消費で後回しにされている。故障時以外の買換えが少ない傾向である（家電量販店）。</li> <li>▲：全国旅行支援など補助事業も終わり旅費も高騰しているなか、同じような感覚で問合せがあるが、旅行代金が倍になっていると諦める客も結構多い（旅行代理店）。</li> </ul>

(D I) 現状・先行き判断D I（沖縄）の推移（季節調整値）

